

気まぐれ新聞 昭和の引き出し

【ボッテン浴びる】

皆さん、この言葉はなんでしょう？

旧三豊郡や旧観音寺町の西部に残っている方言で「池で泳ぐ」ことです。

今年92歳の筆者が話を進めてゆきますが、当然ご先祖様も使った歴史あるこの方言は、300有余年になろうかと思います。

この「ボッテン浴びる」が地域でどう成長してきたか考えてみましょう。

【先ず地域の行事から】

小学校に入学したある日、地域の小若衆の招待で「めよい」と言う会があり、ここではイリコ飯の物相(もっそう)飯を食べたり、子供としての自覚やこれからの様々な行事の準備をします。その一つが水泳用の六尺禪の準備です。

なぜ六尺禪かは人が溺れていたら自分の禪を投げ与えたり、縛ったりするには短くてはだめで六尺必要だそうです

【命がけの遊びだと気づく】

ある日筆者が池で泳いでいると横には蛇が並ぶようにいた、必死に逃げた方向は池の中央に向かっていて、岸に向かって泣きながらたどりついたが命がけの遊びだと思った。

【教えるのは誰か】

水泳は6年生の男子、お地蔵祭用の花採りは3~4年生の男子が、お盆中日の魚釣り等の殺生を戒めたのは近所の叔母さん、禪の使い方は近所の青年たち、長い年月子供ばかりで教えあつたが事故らしい話は聞いたことがない。